

院内情報ネットワーク構築と電子カルテ導入による業務改善をめざして

札幌市 (医)五稜会病院

○田中 倉一、中島 公博、浮田 志保、鈴木 由美子、富永 英俊、千丈 雅徳

五稜会病院

目標:IT化による情報共有と業務の効率化

病院業務は多くのスタッフからなるチーム医療

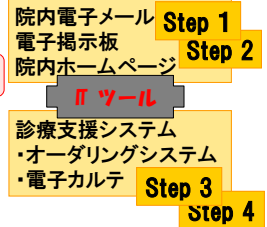
スムーズな情報の伝達・共有

多職種との情報交換 促進

業務の効率化

患者サービスの向上

患者への質の高い医療の提供を目指して



IT化の流れ(4 Step) 現在までの取り組み

Step 1 H16年 院内ネットワークの構築

グループウェアの導入(電子メール・電子掲示板)

Step 2 H16年 院内ホームページの構築

業務マニュアルの電子化(医療機能評価 受審)

Step 3 H17年 オーダリングシステムの導入

診療支援システム (処方・検査・食事・病床管理)

Step 4 H22年 電子カルテの稼働

Step 1-2 院内ネットワークと院内ホームページの構築

H16年 増改築工事を機に院内LAN・サーバの整備(PC60台)
IT促進委員会 設置 『利用規定』『セキュリティー対策』整備

情報伝達ツール

グループウェア

(電子メール・電子掲示板・スケジュール管理)
情報の共有、コミュニケーションを円滑にし、業務の効率化を図る

GMCnet's



情報の一元管理

院内ホームページ

(業務マニュアルの電子化、スタッフの勤務表
研修会資料、患者用パンフレット、DI情報
各種書式・規定)
最新情報がリアルタイムに共有、ペーパレス化
職員が何時でも閲覧可能

五稜会バイブル



Step 3-4 オーダリングシステムから電子カルテへ

業務の効率化

H17年 電子カルテに先駆けオーダーリングシステムの導入
診療支援システム「アルファ」(㈱ベータソフト社)導入
処方オーダー、検査オーダー、給食オーダー、病床管理、文書管理 稼働
医事コンとの連携により診療報酬の取りこぼしを無くした

- ・H22年 ネットワークの再構築(PC120台)
- ・回診対応のため一部無線化
- ・データベース サーバの再構築

患者情報の共有

H22年 電子カルテへ移行
患者情報(診療録・他)の共有
コメディカルの記録を共有
(PSW・CP・OT・デイケア・訪問・他全て)
文書管理・帳票管理
お小遣い管理



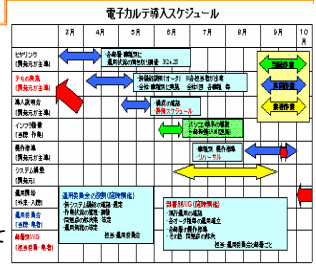
電子カルテ導入経過

電子カルテへ Step Up 決定

- ・チーム医療において、患者情報の迅速な共有に電子カルテが有効と判断した
- ・オーダーリングシステムを5年間稼働し操作・運用に慣れた

電子カルテ運用委員会 立ち上げ

構 成 : 委員は医師・薬剤師・看護師
医事・コメディカルの14名
役 割 : システム選定(デモの実施)
開発元との運用調整
業務フロー・マスタの作成
運用規程の作成
各種操作指導、リハーサル、運用
開 催 : 週1回程度の開催、担当委員が
稼働前2週間はほぼ毎日医局にて
開催



紙カルテ から 電子カルテに

診療支援システム
E-View

運用の見直しは大きな壁

- ・当院の紙カルテでの運用ルールに大きく見直しが必要となりました
- ・良くも悪くも紙カルテの柔軟性(融通性)は電子カルテに通用しない・・・

開発元へ要望書の提出

- ・現場のニーズとシステムに相違があり開発元と再検討、要望書の提出
 A:改善しないと機能しない B:出来れば改善してほしい C:今後の改定で見直してほしい
 結果、双方での歩み寄りでの新たな業務フローが作成された (現在も進行中)

ついにリハーサルを迎え

- ・委員中心でシステムの内となるマスタを作成
- ・稼動2週間前に開発元とリハーサルを実施 (外来・入院の数パターンを作成)
 →不具合の再調整



本稼動日の朝

考 察

- ・院内情報システム・電子カルテの導入は、小規模病院において費用の面で負担が大きいのは事実である →直接利益には結びつかない
- ・病院の職員構成を考えるとシステムの導入には抵抗があった
 →H16年から段階的に導入することで比較的スムーズに進んだ
- ・診療支援システムの導入では業務運用を見直す良い機会となった
 →業務フローチャートの作成により各職種の役割が明確になった
- ・文書管理システムでは診療録より自動転記により書類作成が容易になった
- ・医事コンと連動することで精神療法などの記事記載が直接コストに反映

今後の課題

- ・ITにより利便性は増したがセキュリティの面で常に検討が必要
 →情報の持ち出し防止(内部規定)、ウイルス対策が常に必要
- ・システムへの依存が高くなると災害時などの致命的な機能停止が医療体制を揺るがす →災害を想定したシミュレーションの実施

まとめ

- ・院内情報システム(グループウェア・院内ホームページ)での情報共有
 メールでの意見交換は業務の利便性を大きく向上させた
- ・診療支援システム(オーダーリング・電子カルテ)により、多職種が患者の情報を共有し、治療経過を把握することでチーム医療を発揮できる
- ・多職種の記録の統合により診療録の記載内容の充実が図れた

以上より

記録、文書作成が増える昨今の医療制度に病院のIT化は非常に有効である
 システムの導入による業務の効率化で患者サービスの向上に結びつけたい

